

金融機関御中

IFRSの導入 タスク遂行とプロジェクト御支援

J-SOXより遥かに大きい波への対処は？

第一部：[コマーシャル・バンクでの想定事例]

平成22年03月31日



株式会社 インフォブレインズ



情報支援：きんざいグループ

はじめに

- IFRS として詳解されている基準は「国際会計基準」、直訳では「国際財務報告書基準」となりますが、近年米国の採用により、俄かにその巨大な改革事業プロジェクトが現実味を帯びてきています。
- 少し前に経験させられたJ-SOX導入時でのタスク遂行に比べ、これはその規模、影響範囲とも大きいと報ぜられています。また、企業内での対処は事業全体にて行わなければならない様相を呈しています。
- ここでも金融庁が旗振り役を任じますが、弊社の蓄積したグローバルな金融機関でのコンサル実績は一步先んじて皆様の対応御支援を行えると自負しております。

時代に合わせた進化が必要とされるので、
今までの諸基準よりも頻繁に進化・変更されます。
企業側は常にそれに対応する必要があります。

教科書の記述は・・・ Part I

[骨子と概要]

- フロント、ミドル、バックと言ったような一部署や限定的な範囲での対応では実行出来ないと考えます。
- 銀行全体でのプロセス、コントロール、システム等が標準化され、有機的に統合されて、初めて効果が得られると考えます。
- 着手は全行的なリスク管理視点からの可視化、業務改革と理解して行う事が解り易いと考えます。
- 経営に直結するプロジェクトですから、経営資源が供給されなければなりません。
- 構築後、継続的な機能維持が強く要求されます。

教科書の記述は・・・ Part II

〔日米基準からの乖離点〕

日本では米国会計基準を睨みながら独自の基準で業務の遂行を行ってきましたが、今回の基準で主たる改革と考える事は以下の四点で宜しいかと考えます。

- 種々の取引で、資産価値の移転時期に対する考えかた。
- システム開発、監査マニュアルの作成など、資産価値創造段階での価値創造と、その会計処理の考え方。
- リース等の事業に対する資産価値移転の考え方。
- 金融商品(例えばデリバティブス)の資産価値移動時点、並びに会計処理の考え方

註：一見、財務経理の課題の様に見えますが、これは企業の事業そのものの経営課題です。

着手点のメニュー例 [経営陣編]

企業全体のプロセス、コントロール、システム、管理、監査等の部署に対し、可視化実現の視点から着手点を決定します。

- フロントでの収益戦略、市場掌握を検証し、必要な改革を施します。
- リスク管理の的確性を検証し、必要な改革を施します。
- 事務方のプロセス、コントロールの的確性、可視化を実現する為の改革を施します。
- 監査、コンプライアンス、法務、人事等の管理部署での合理性を検証し、必要な改革を施します。
- もう一人の主役、ITは次ページ以降に米銀の例を挙げます。

柔軟で活性化が容易なシステム []

(設計思想とその構造: 米国での例数点)

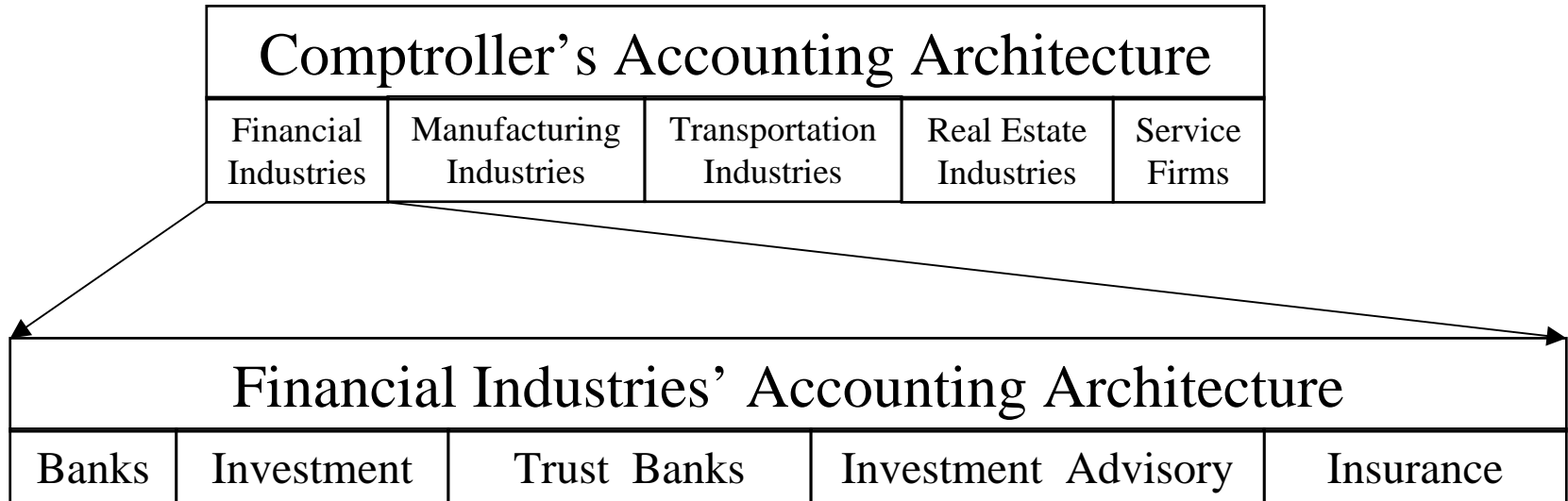
実際に銀行が利用していたシステム思想、構造をお見せします。所々に日本語化不適切な場所がありましたので、当分、原文(英文)のまま掲載いたします。

- 1) コングロマリット会社の全体会計構造
- 2) 商業銀行の会計構造例
- 3) 商業銀行での基本会計システム構造
- 4) 基本会計システムの各データベース関連構造
- 5) 金融信用商品例での各データベース関連構造
- 6) 監査機能の支援システム構造

Accounting Core Module

No.1

Share Holding Companies' Architecture



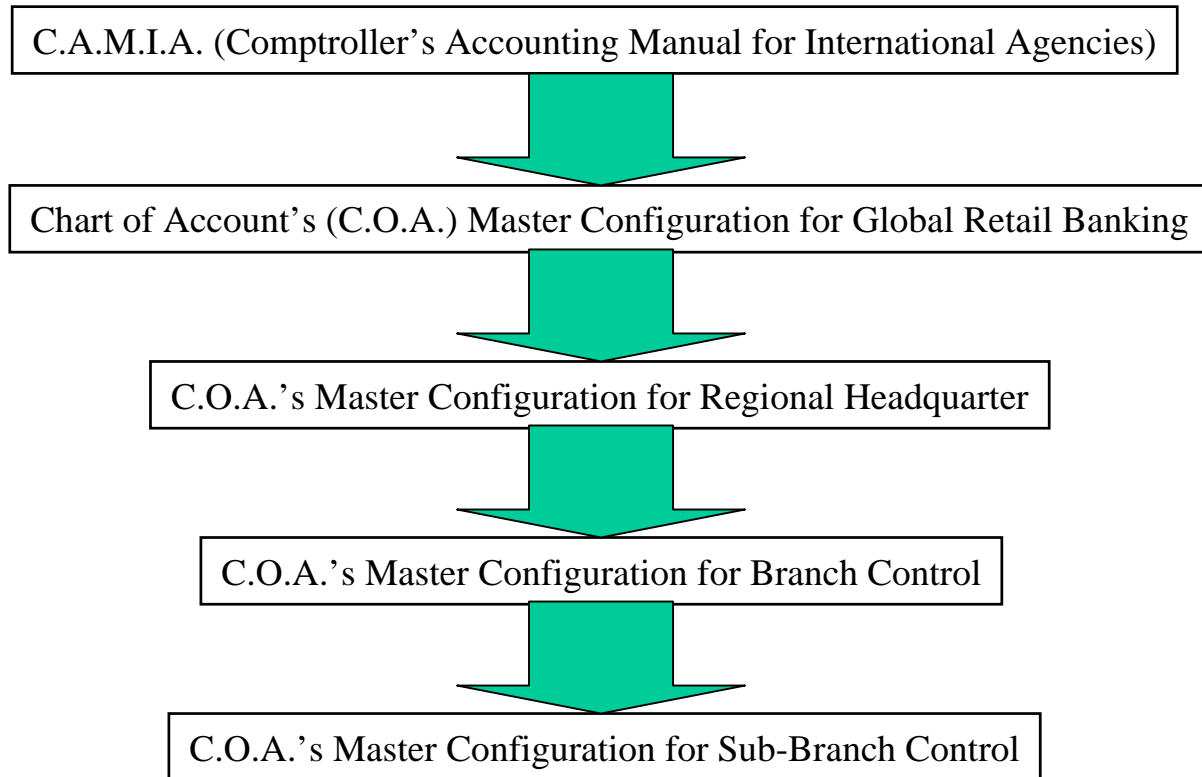
This example showed the full configuration of accounting core module generally used by the comptroller's (same as a controller in general) administration purposes.

Most of the instances, banking industries were heading the architecture of industries until the age of 1980. But afterwards, shareholding company is heading this architecture.

Accounting Core Module Architecture

Example in Retail Banking System

No.2

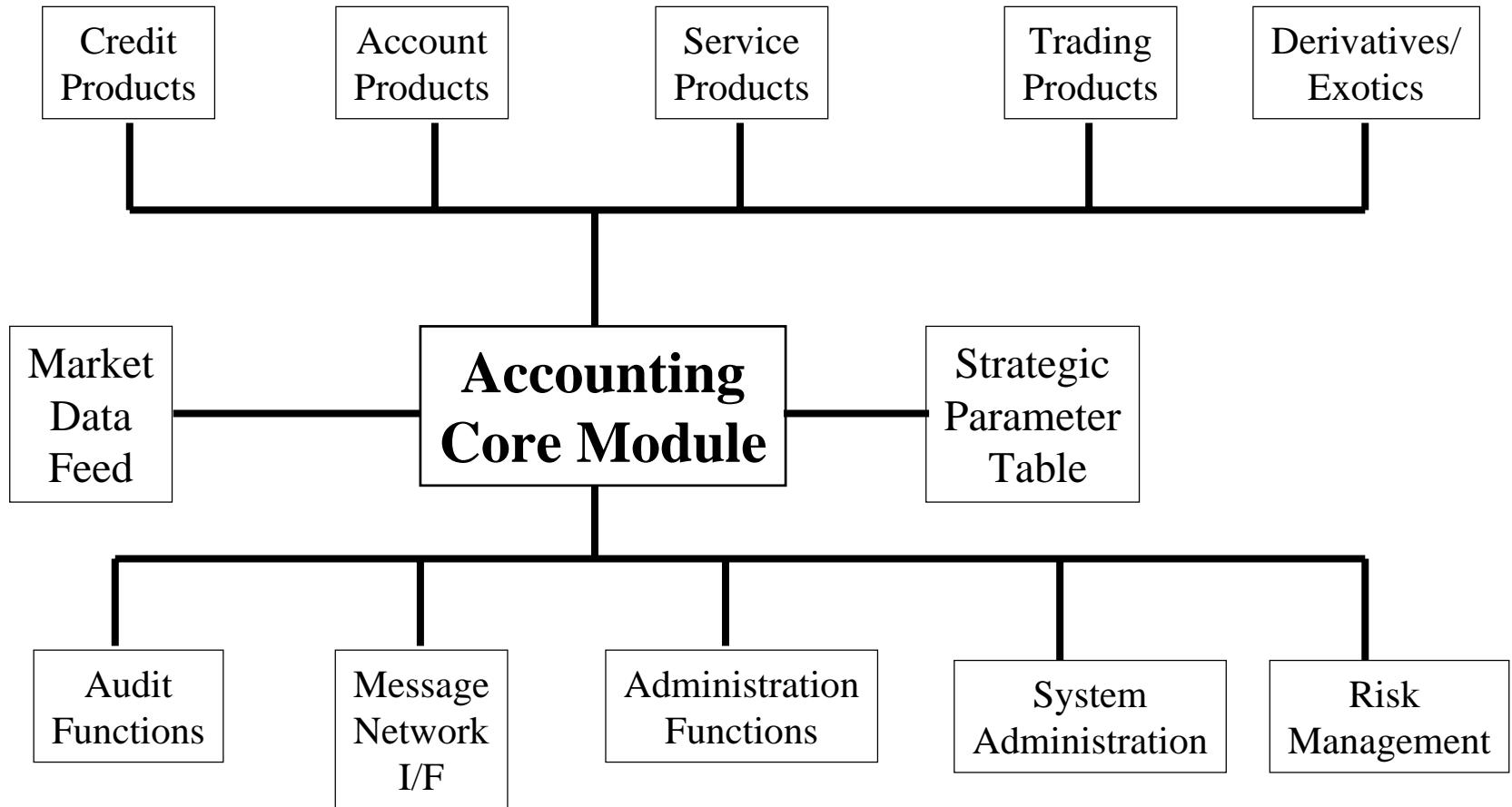


Retail Bank / Retail Service Institute

No.3

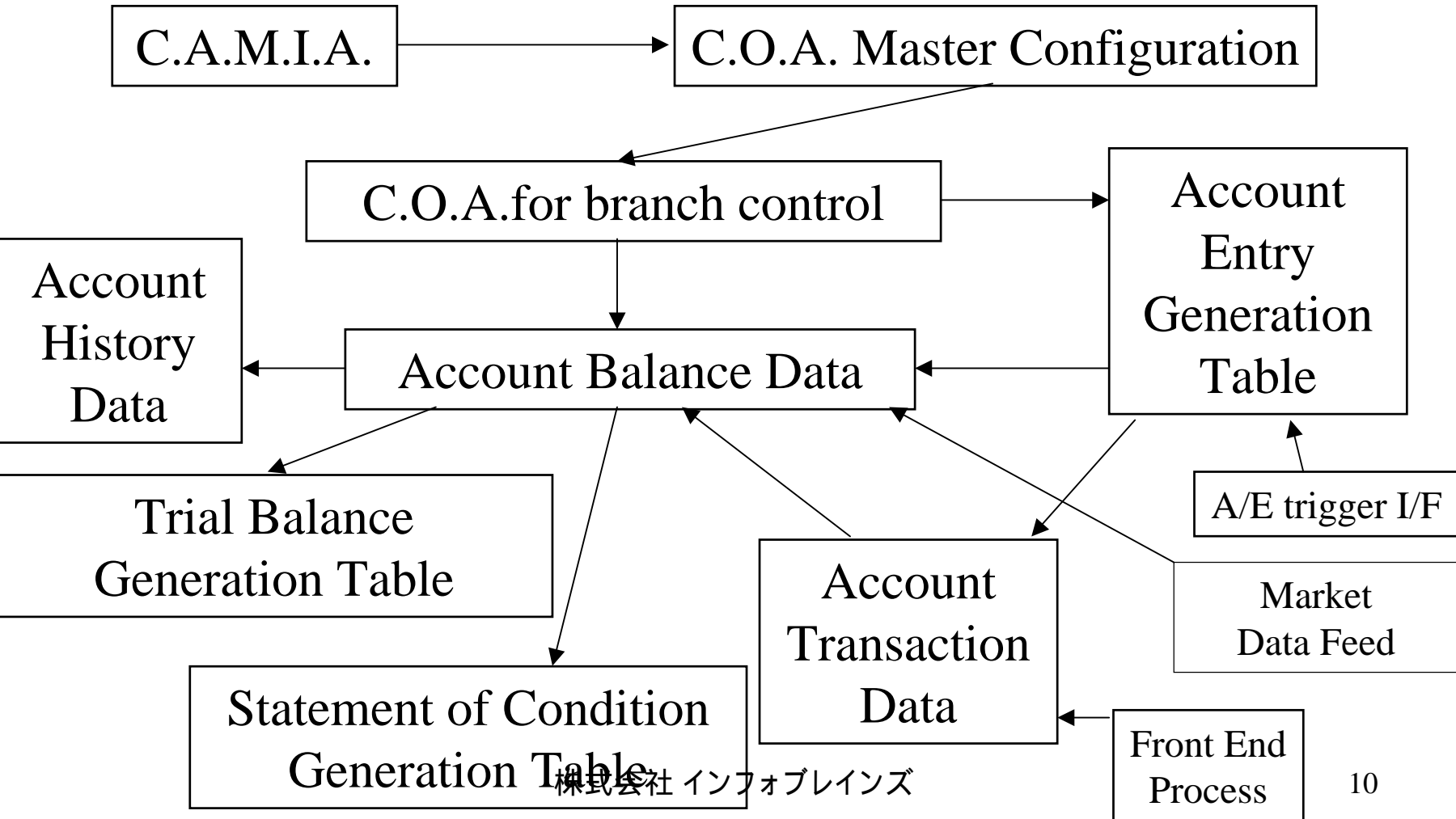
System Architecture (Example)

Bank Management Support System Diagram

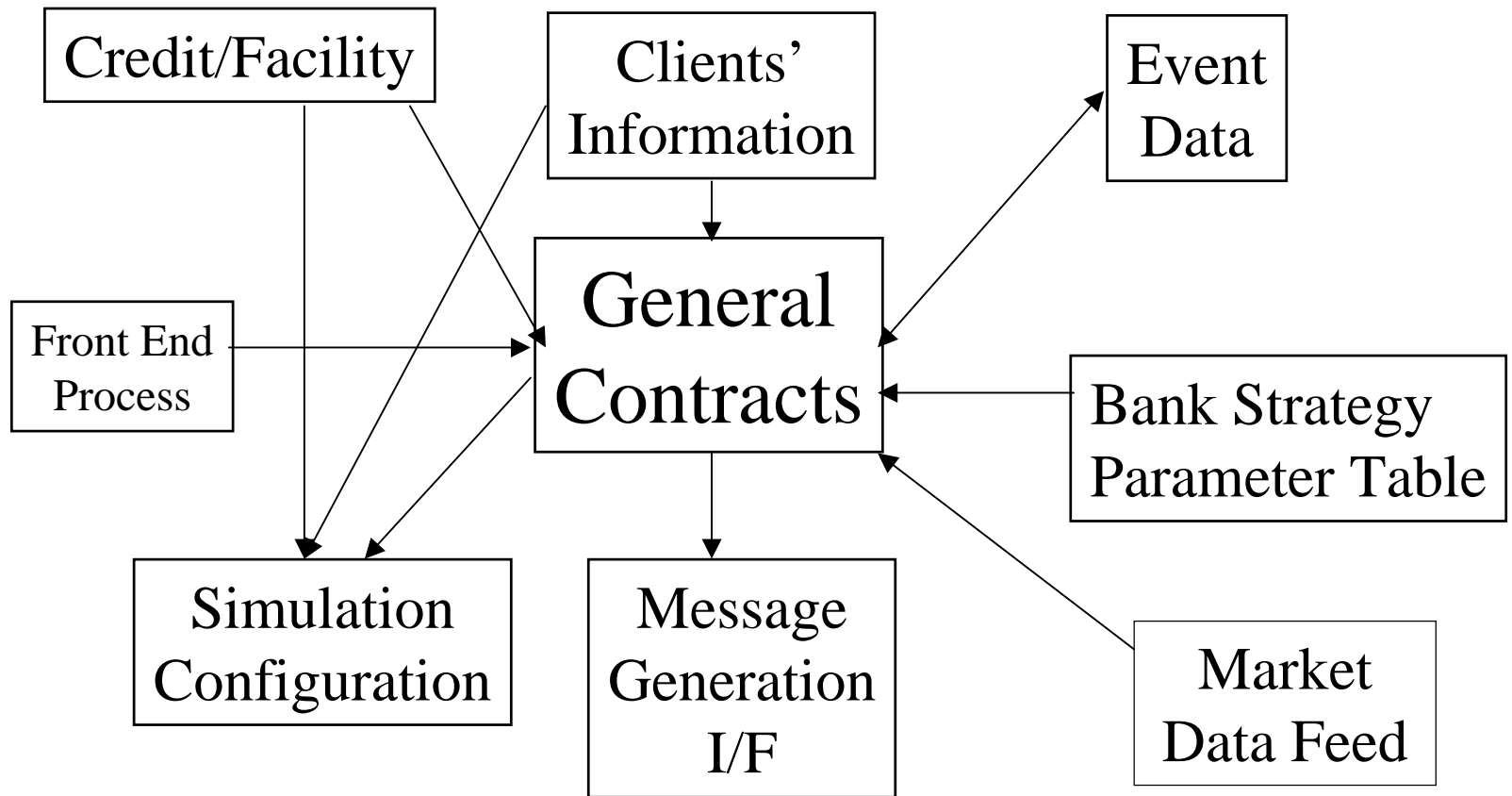


Accounting Module Database Architecture

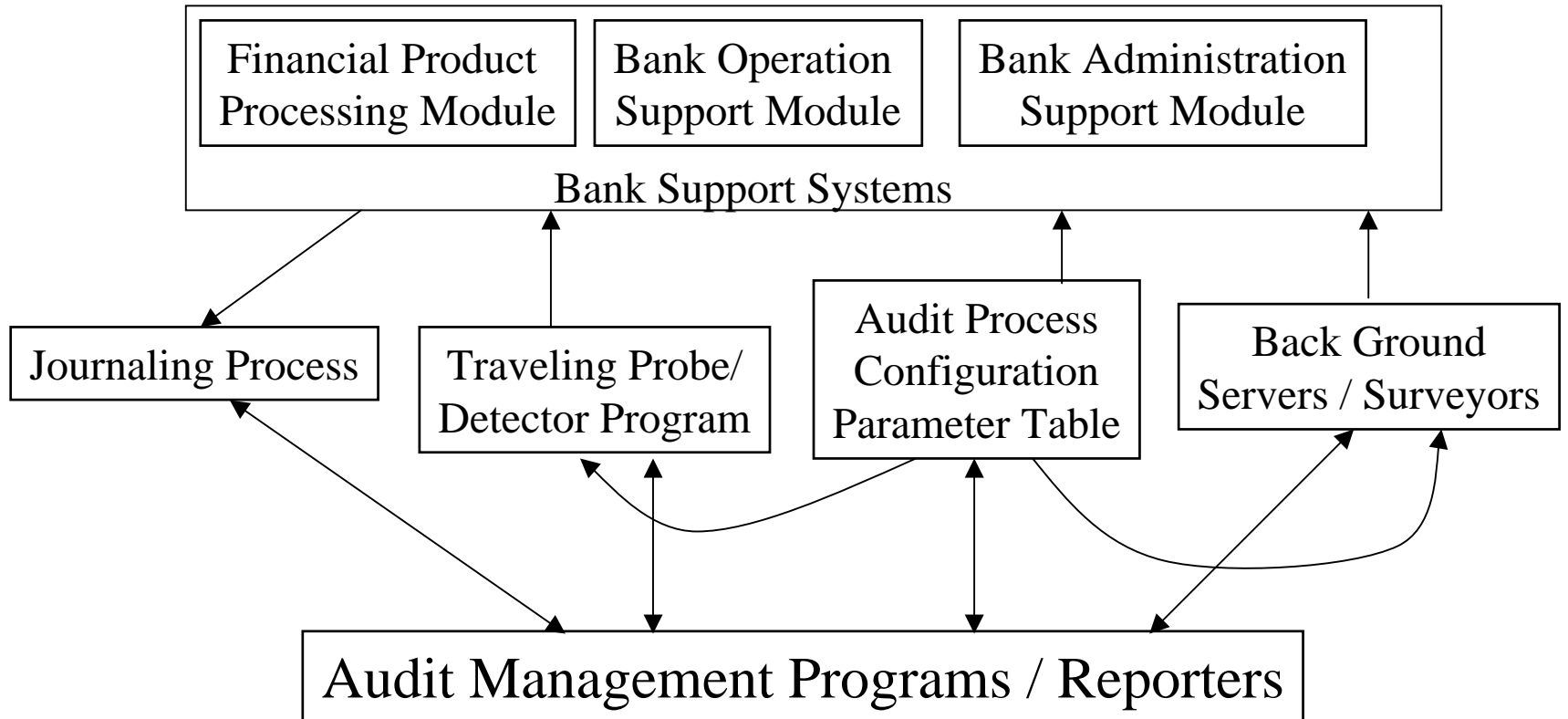
No.4 Example from Retail Banking Application



Credit Product Module (Example)



Audit Support Functions(Example)



金融機関リース部門御中

I F R S の導入 タスク遂行とプロジェクト御支援

J-SOXより遥かに大きい波への対処は？

第二部：[リースビジネスでの想定事例]

平成22年03月31日



株式会社 インフォブレインズ



情報支援：きんざいグループ

はじめに

- IFRS として詳解されている基準は「国際会計基準」、直訳では「国際財務報告書基準」となりますが、近年米国の採用により、俄かにその巨大な改革事業プロジェクトが現実味を帯びてきています。
- 少し前に経験させられたJ-SOX導入時でのタスク遂行に比べ、これはその規模、影響範囲とも大きいと報ぜられています。また、企業内での対処は事業全体にて行わなければならない様相を呈しています。
- ここでも金融庁が旗振り役を任じますが、弊社の蓄積したグローバルな金融機関でのコンサル実績は一步先んじて皆様の対応御支援を行えると自負しております。

時代に合わせた進化が必要とされるので、
今までの諸基準よりも頻繁に進化・変更されます。
企業側は常にそれに対応する必要があります。

教科書の記述は・・・ Part I

[骨子と概要]

- 一部署や限定的な範囲(財務・経理など)での対応では実行出来ないと考えます。
- プロセス、コントロール、システム等が標準化され、有機的に統合されて、初めて効果が得られると考えます。
- 着手は業務改革と理解して行う事が賢明と考えます。
- 経営に直結するプロジェクトですから、経営資源が供給されなければなりません。
- 構築後、継続が強く要求されます。

教科書の記述は・・・ Part II

〔日米基準からの乖離点〕

日本では米国会計基準を睨みながら独自の基準で業務の遂行を行ってきましたが、今回の基準で主たる改革と考える事は以下の四点で宜しいかと考えます。

- 売掛金等、資産価値の移転時期に対する考えかた。
- 研究、開発などの資産価値創造段階での価値創造、並びに会計処理の考え方。
- リース等の事業に対する資産価値移転の考え方。
- 金融商品(例えばデリバティブス)の資産価値移動時点、並びに会計処理の考え方

註：一見、財務経理の課題の様に見えますが、これは企業の事業そのものの経営課題です。

着手点のメニュー例 [経営陣編]

企業全体のプロセス、コントロール、システム、管理、監査等の部署に対し、可視化実現の視点から着手点を決定します。

- フロントでの収益戦略、市場掌握を検証し、必要な改革を施します。
- リスク管理の的確性を検証し、必要な改革を施します。
- 事務方のプロセス、コントロールの的確性、可視化を実現する為の改革を施します。
- 監査、コンプライアンス、法務、人事等の管理部署での合理性を検証し、必要な改革を施します。

着手点のメニュー例

[リース事業部所編] Part I

リース事業部署に於いて、プロセス可視化、コントロールの可視化、リスク管理、監査、システム再構築等のタスクを実施します。

プロセス可視化作業

- リース・プロセスの流れ、処理状態を検証し、マニュアル、プロセス・チャート等の纏め上げます。
- 考えられるリスク・ポイントを検出し、その波及範囲を確認し、リスクの定量を行います。
- 当該リスク・ポイントにリスク管理プロセスを導入、施行します。

ご案内の通り、2010年からのIFRSの重い注目点はリース事業での業務プロセス更改点にあります。

着手点のメニュー例

[リース事業部所編] Part II

財務・会計プロセスを検証・再構築する

- 会計データの仕訳を可視化されたプロセスに従って、再確認します。
- 会計データ発生について、そのタイミング、引き金要件、発生条件を確認します。
- 財務諸表への反映を検証、確認します。
- 改革着手前と以降の変更点、整合性を確認、検証し、不連続点の詳細を明確にします。

着手点のメニュー例

[リース事業部所編] Part III

内部監査、会計監査の評価、確認

- 業務監査、会計監査、リスク監査等、内部統制に従った評価、確認を得ます。

経営陣での確認

- 前述、Part I で述べたような経営陣が必要とする情報、案件が行われているかの確認をします。
- 財務諸表に記載されるべき詳細説明の内容を整備、確認します。

着手点のメニュー例

[リース事業部所編] Part IV システムの検証と再構築

- 業務情報、財務・会計情報が取得できるシステム構成になっているかの確認を行い、必要なら修正、再構築を行います。
- 検証ポイントは：
 - 財務諸表に必要な業務情報、会計情報が処理できる状態になっているか検証します。
 - 会計構造、会計仕訳項目が十分かを検証します。
 - 業務情報で、経営陣が記述すべき詳細情報が得られる状態になっているかを検証します。
- 財務諸表作成の為のXBRL環境の導入が必須です。

会計仕分項目の変更は会社全体に大きく影響しますので、十分な準備期間が必要と考えます。
あまりERPに過剰期待しない事が大切です。